

清瀬市農業振興計画 農業者向けアンケート調査
報告書

令和8年3月

第1章 アンケート調査実施概要

1. 調査目的

本調査は、次期清瀬市農業振興計画を策定するにあたり、農業者へのアンケート調査を実施することにより地域農業の現状を分析し、計画策定の基礎資料とすべく調査を実施しました。

2. 調査の実施概要

| | |
|-------|--|
| 調査対象 | 清瀬市内の農地所有者 |
| 総発送数 | 242通（うち法人2件） |
| 調査方法 | 郵送により配付・回収 |
| 調査期間 | 令和7年11月19日～令和7年12月10日 |
| 有効回収数 | 149件 |
| 有効回収率 | 61.6% ※有効回収数（149）÷総発送数（242）×100にて算出。 |
| 調査内容 | ○主に農業に従事されている方の属性 ○農業経営や農地に関すること ○農業振興施策に関すること |

3. 報告書の見方

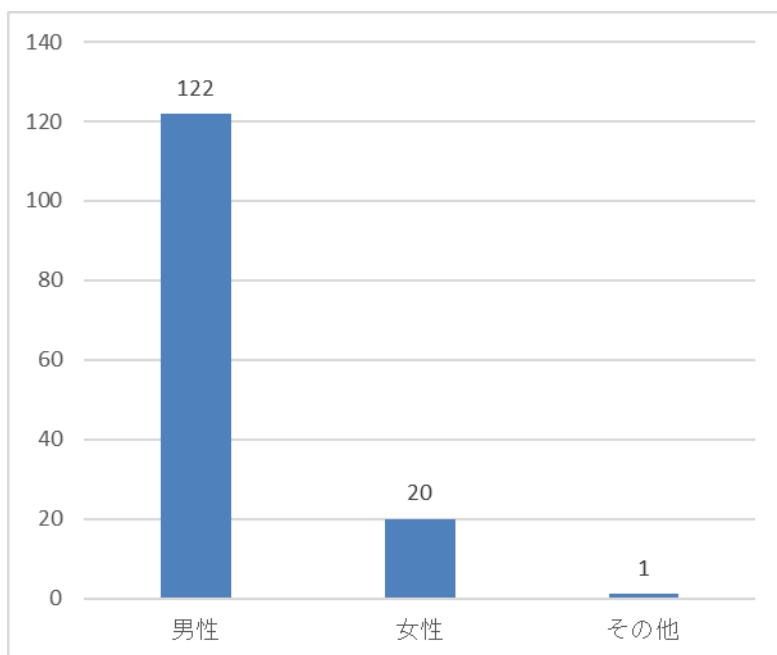
- 1 図表中のnとは、回答者総数（または該当設問での該当者数）のことでです。
- 2 本文や図表内の選択肢表記は、場合によっては語句を短縮・簡略化しています。

第2章 調査結果

1 主に農業に従事している方とその家族について

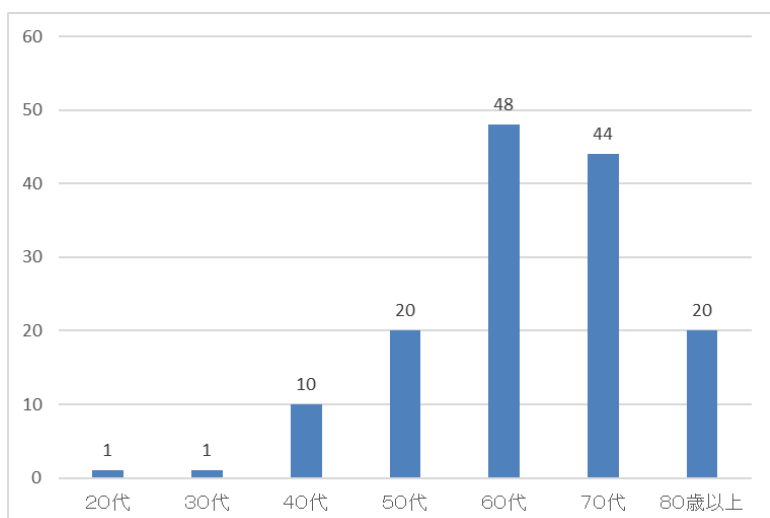
Q1. 主に農業に従事している方（以下、回答者）の性別について(n=143)

「男性」が122人、「女性」が20人の回答となっています。「その他」で回答した方は1人となっています。



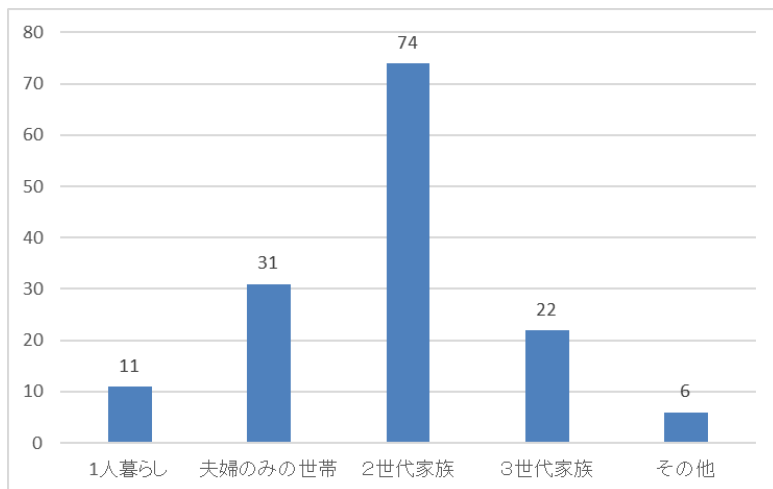
Q2. 回答者の年代について(n=144)

60歳代（48件）が最も多く、次いで70歳代（44件）、50歳代・80歳代（20件）となっています。



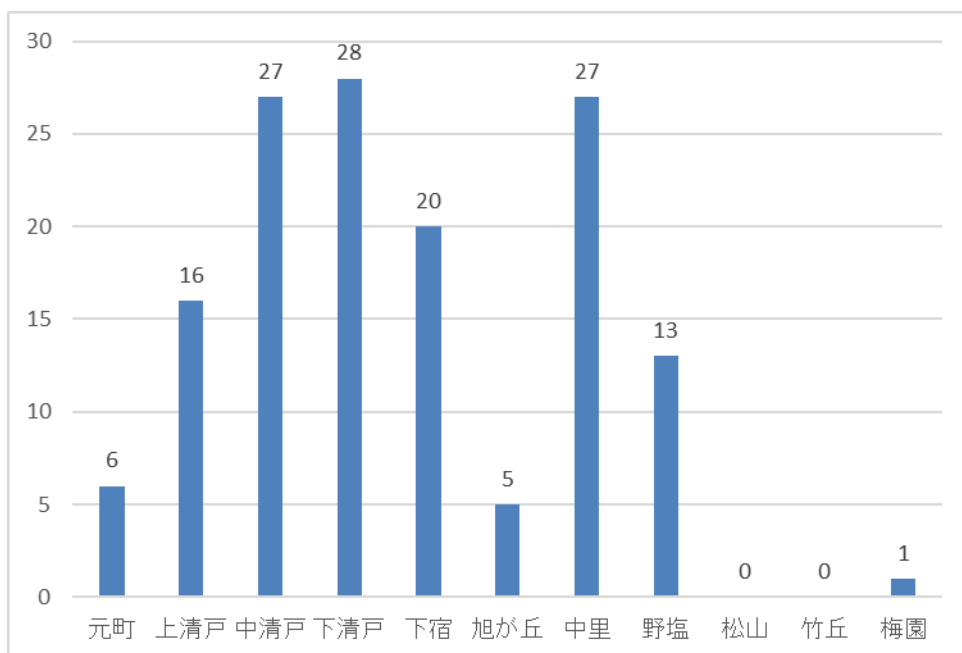
Q3. 回答者の家族構成（同居親族）について(n=144)

「2世代家族」（74件）が最も高く、次いで「夫婦のみ」（31件）となっています。



その他:四世代家族、きょうだいと同居

Q4. 居住地について(n=143)



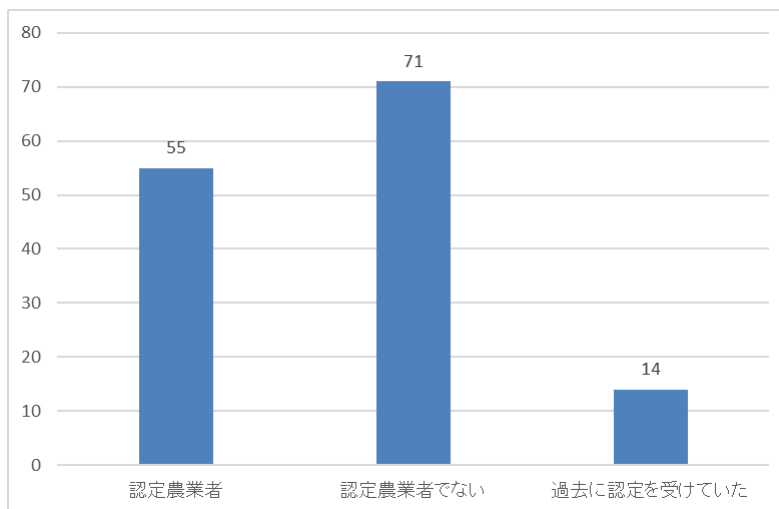
Q5. 農業従事者について (n=238)

男性が164名、女性が130名で合計294名でした。最も多い従事日数は男女とも150日以上で、男性は半数以上が60歳未満でした。

| 男性(うち60歳未満) | | | 女性(うち60歳未満) | | |
|---------------|--------------|----------------|--------------|---------------|---------------|
| 60日未満 | 60~149日 | 150日以上 | 60日未満 | 60~149日 | 150日以上 |
| 27(11) | 8(5) | 69(36) | 22(6) | 18(10) | 44(21) |
| 2(0) | 6(2) | 42(10) | 2(2) | 4(0) | 34(2) |
| 0 | 3(0) | 3(0) | 3(0) | 0(0) | 3(3) |
| 0 | 0 | 4(0) | 0 | 0 | 0 |
| 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 29(11) | 17(7) | 118(46) | 27(8) | 22(10) | 81(26) |

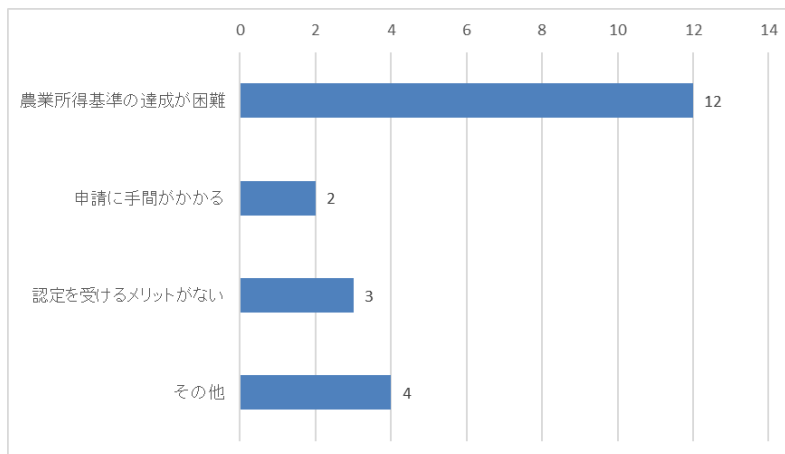
Q6. 認定農業者について(n=140)

「認定農業者でない」(71件)が最も多く、続いて「認定農業者」(55件)となっています。



Q6-2. 過去に認定農業者であったが、今はそうでない理由(複数回答あり n=21)

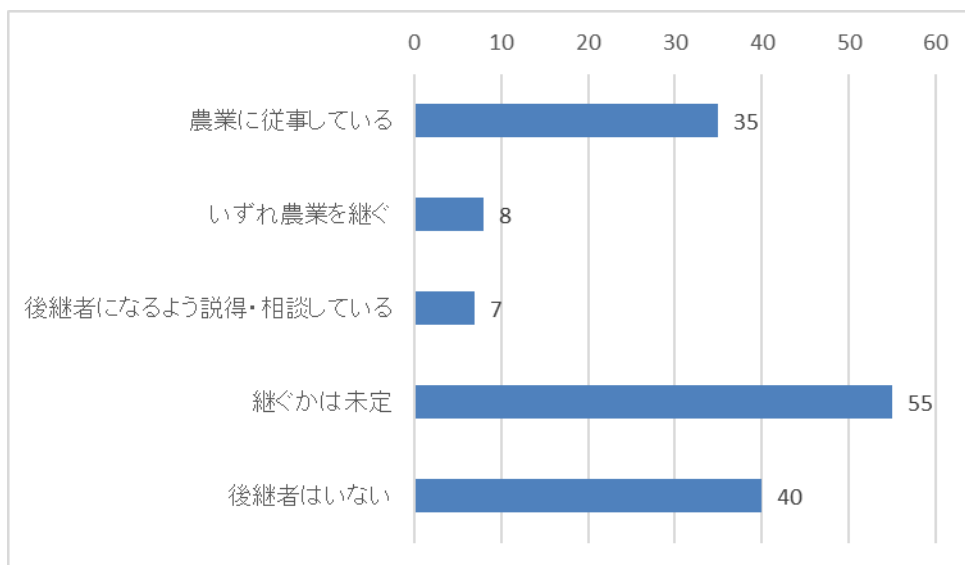
「農業所得基準の達成が困難」(12件)が最も多くなっています。



その他:小規模のため、後継者がいない 等

Q7. 農業後継者の有無(n=145)

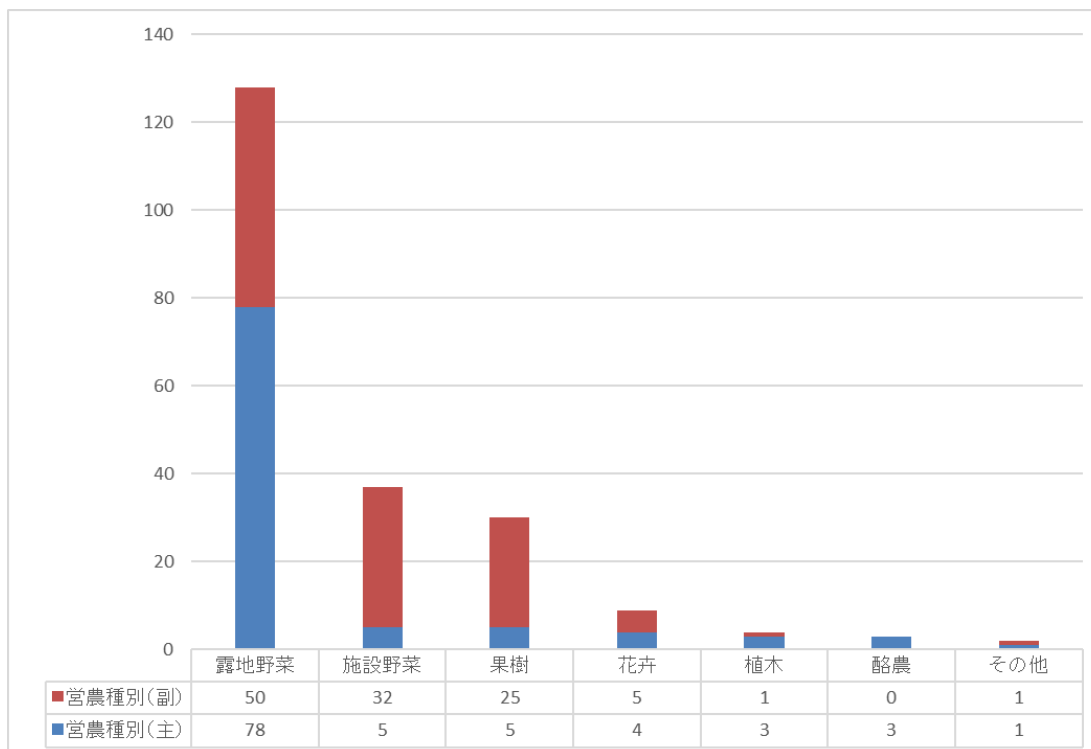
「継ぐかは未定」(55件)が最も多く、続いて「後継者はいない」(40件)、「農業に従事している」(35件)となっています。



2 農業経営の状況について

Q8. 営農種別について (主・副を回答 n=213)

「露地野菜」が主副とも最も多く、次いで施設野菜・果樹と続きます。



Q9. 農業経営規模（農地面積、借入含む）について（n=149）

149 件の回答があり合計の面積は下表の通りです。

| | 清瀬市内 | | 清瀬市外 | | |
|-------|--------|-------|------|-------|--------|
| | 生産緑地 | 宅地化農地 | 生産緑地 | 宅地化農地 | 市街化区域外 |
| 合計(a) | 32,944 | 4,642 | 290 | 12 | 1,090 |

Q10. 生産している農作物について（n=149）

○149 件の回答がありました。それぞれ以下の通りです。（面積単位:a）

【市内の農地】

○野菜

| 品目 | 面積 | 品目 | 面積 | 品目 | 面積 |
|--------|-------|---------|--------|----------|--------|
| アスパラガス | 12 | ジャガイモ | 888 | ニンニク | 10 |
| 甘トウガラシ | 1 | ショウガ | 10 | ねぎ | 392.9 |
| イチゴ | 3 | スイートコーン | 55 | ノラボウ | 14 |
| オクラ | 3.2 | スイカ | 6.7 | 白菜 | 22.85 |
| カブ | 305.5 | セルリー | 20 | ピーマン | 6.6 |
| カボチャ | 2.7 | 大根 | 155.2 | ブロッコリー | 2279.7 |
| カリフラワー | 35.1 | タケノコ | 2 | ほうれん草 | 3194.4 |
| クワイモ | 1 | タマネギ | 26.18 | ホップ | 5 |
| キャベツ | 136.2 | チンゲンサイ | 17 | マルイモ | 1 |
| キュウリ | 44.6 | トウモロコシ | 5123.2 | 水菜 | 165 |
| 京芋 | 1 | トマト | 67.4 | ミニトマト | 27.1 |
| ゴボウ | 30 | 長ネギ | 14 | ハツ頭 | 3.78 |
| 小松菜 | 505.9 | ナス | 49.16 | ヤマトイモ | 6 |
| サツマイモ | 51.7 | ナバナ | 2 | レタス | 5 |
| 里芋 | 1385 | ニガウリ | 1 | わさび菜 | 10 |
| シシトウ | 0.39 | 人参 | 3957.5 | 野菜(集計不可) | 406.5 |
| | | | | イモ類 | 3.5 |

○果樹

○植木

○豆類

| 品目 | 面積 | 品目 | 面積 | 品目 | 面積 |
|---------|-----|---------|-----|--------|-------|
| イチジク | 0.5 | アオダモ | 20 | インゲン | 1 |
| 梅 | 21 | オンシジューム | 0.5 | 枝豆 | 312.8 |
| 柿 | 36 | コニファー | 15 | ギンナン | 18 |
| キウイフルーツ | 5.4 | サツキ類 | 0.7 | サヤインゲン | 2 |
| 栗 | 123 | 花水木 | 20 | ささげ | 0.2 |

| | | | | | |
|-----------|------|-----|-----|----------|------|
| 梨 | 19 | マサキ | 15 | スナップエンドウ | 6.1 |
| パッションフルーツ | 0.3 | 植木 | 178 | 落花生 | 10.2 |
| ブドウ | 128 | | | | |
| ブルーベリー | 66 | | | | |
| ミカン | 15 | | | | |
| 果樹 | 2400 | | | | |

花卉

その他

| 品目 | 面積 | 品目 | 面積・生産量 |
|------|-------|--------|---------|
| ヒマワリ | 4.5 | 生乳 | 300kg/日 |
| 花卉 | 134.9 | デントコーン | 101.2 |
| | | 苗木 | 8 |
| | | 牧草 | 0.7 |
| | | 麦 | 1.5 |
| | | その他 | 104.9 |

【市外の農地】

○野菜

| 品目 | 面積 | 品目 | 面積 |
|--------|------|--------|------|
| エダマメ | 58 | ダイコン | 34 |
| カブ | 185 | タマネギ | 0.2 |
| カボチャ | 6.75 | トウモロコシ | 10 |
| カリフラワー | 35 | ナス | 2.3 |
| キクイモ | 1 | ニンジン | 140 |
| キャバツ | 30 | ハクサイ | 36.5 |
| キュウリ | 4 | ブロッコリー | 55 |
| サツマイモ | 1 | ホウレンソウ | 245 |
| サトイモ | 20 | ヤマトイモ | 4 |
| ジャガイモ | 13 | レタス | 3 |
| 春菊 | 10 | | |

○果樹

○植木

| 品目 | 面積 | 品目 | 面積 |
|----|----|-----|----|
| 栗 | 21 | 花水木 | 20 |
| | | モミジ | 10 |

○花卉

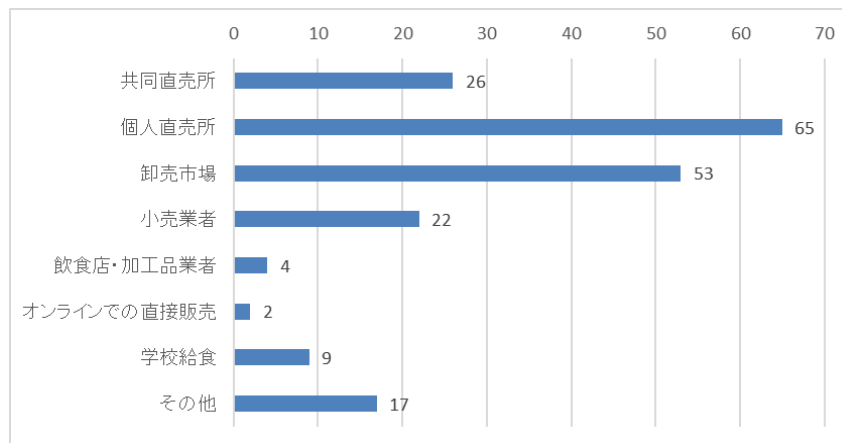
○その他

| 品目 | 面積 | 品目 | 面積 |
|----|----|------|----|
| 花卉 | 60 | オーツ麦 | 10 |
| | | 小麦 | 10 |
| | | 米 | 40 |
| | | ライ麦 | 20 |

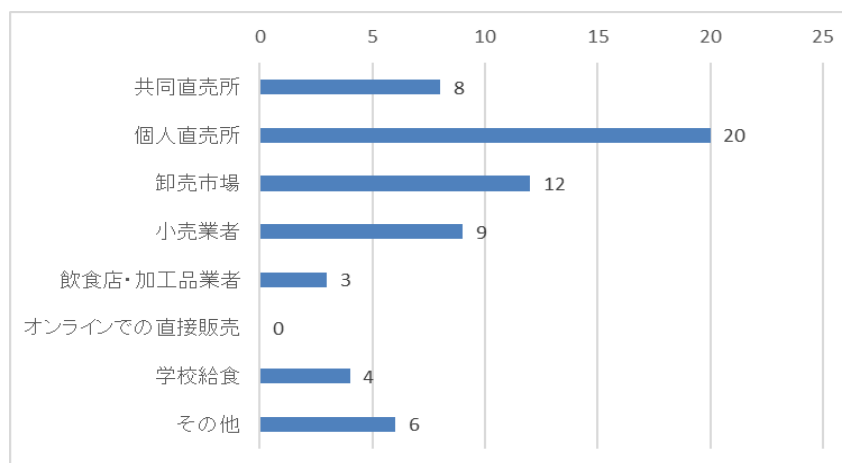
Q11. 生産している主な農産物の出荷先について（複数回答可 n=381）

個人直売所が過去5年間で売上が増加しており、現在の主な出荷先であり今後力をいれたい出荷先であることが分かります。過去5年間で売上が減少した出荷先は卸売市場が多いです。

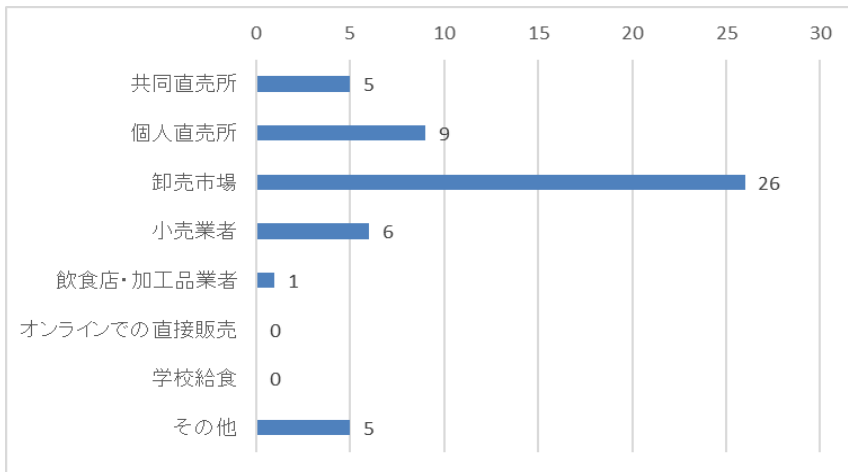
1. 現在の主な出荷先



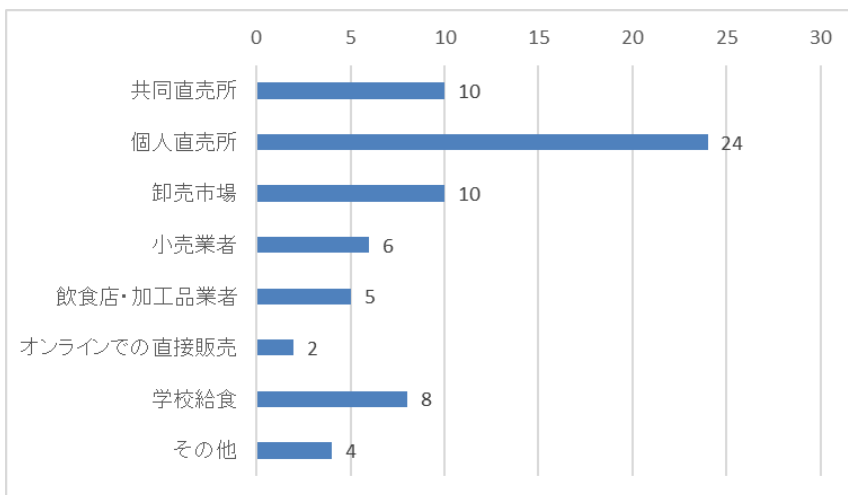
2. 過去5年間で売上が増加した出荷先



3. 過去5年間で売上げが減少した出荷先



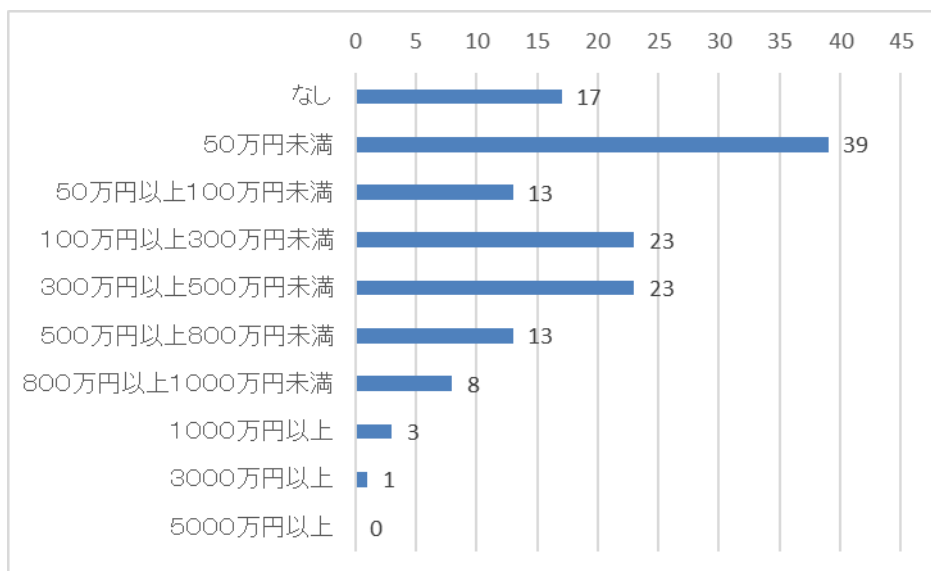
4. 今後力をいれたい出荷先



Q12. 農業収入とそれ以外の収入について (n=422)

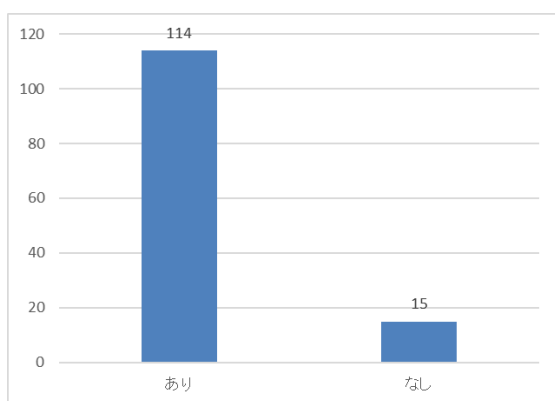
農業収入は「50万円未満」(39件)が最も多く、「300万円以上500万円未満」(25件)と「100万円以上300万円未満」(23件)が続きます。農業収入以外の収入がある方が114件であり、不動産収入が最も多いです。

【農業収入】

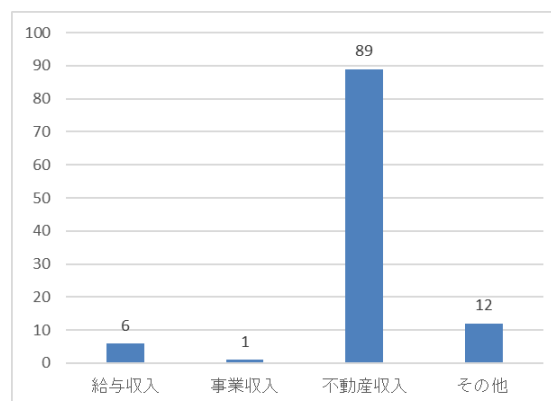


【農業以外の収入】

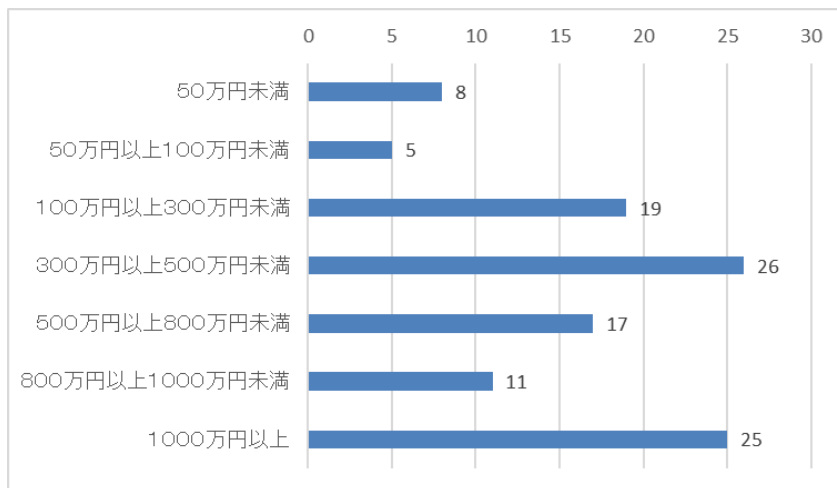
1. 収入の有無



2. 収入の種類

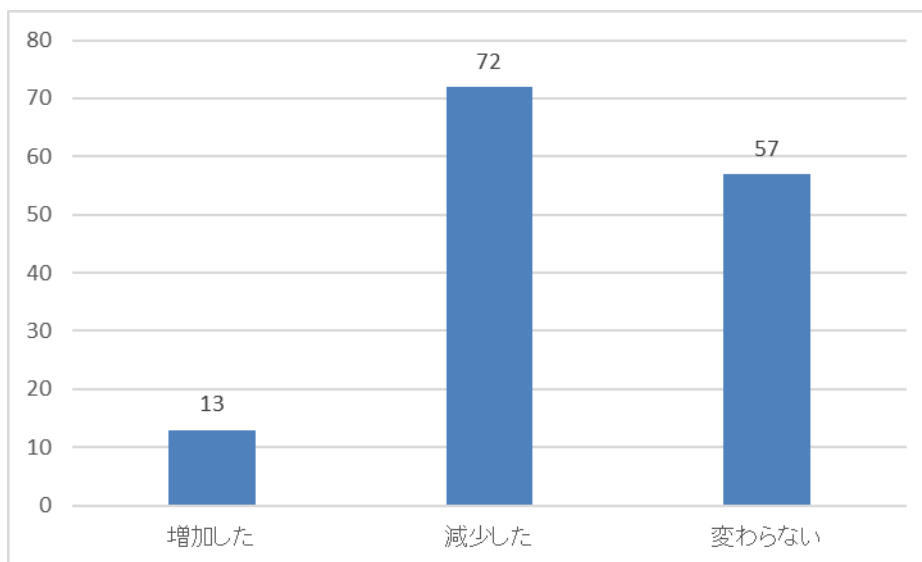


3. 収入額 (次項に掲載)



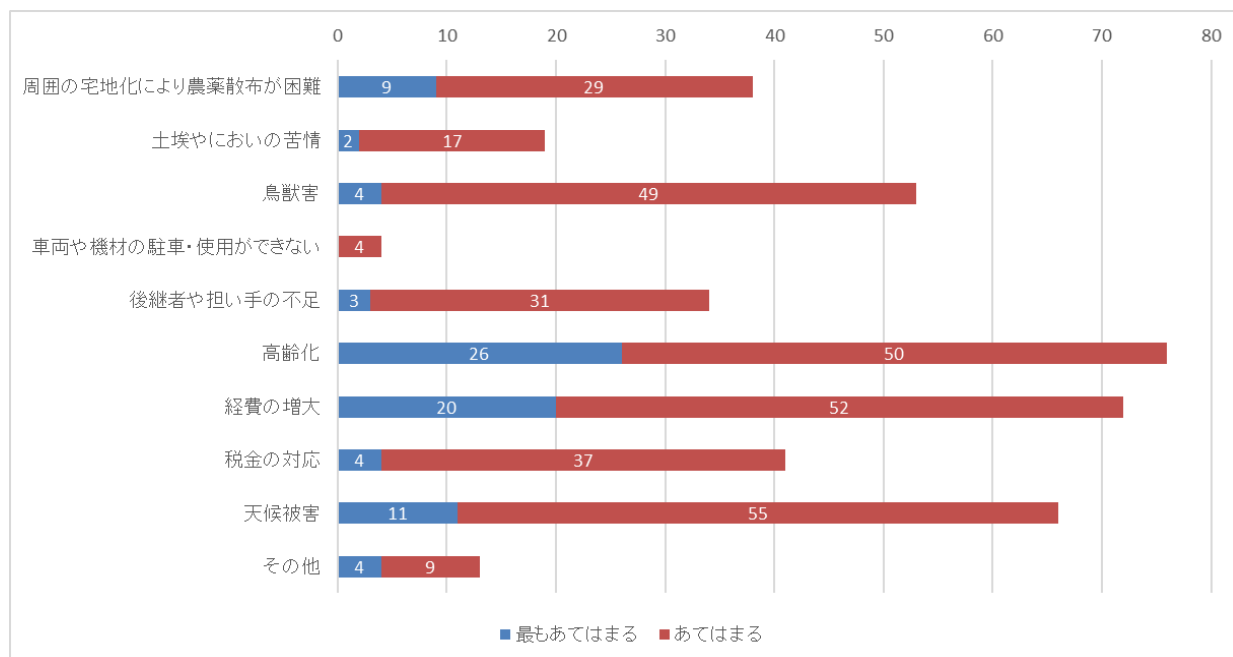
Q13. 令和3年と比較した年間の農業収入（収入－必要経費）の増減（n=142）

「減少した」（72件）が約半数を占めています。物価高騰等による資器材費等の高騰が要因と考えられます。



Q14. 営農をする上での困りごと（あてはまるもの全て回答 n=416）

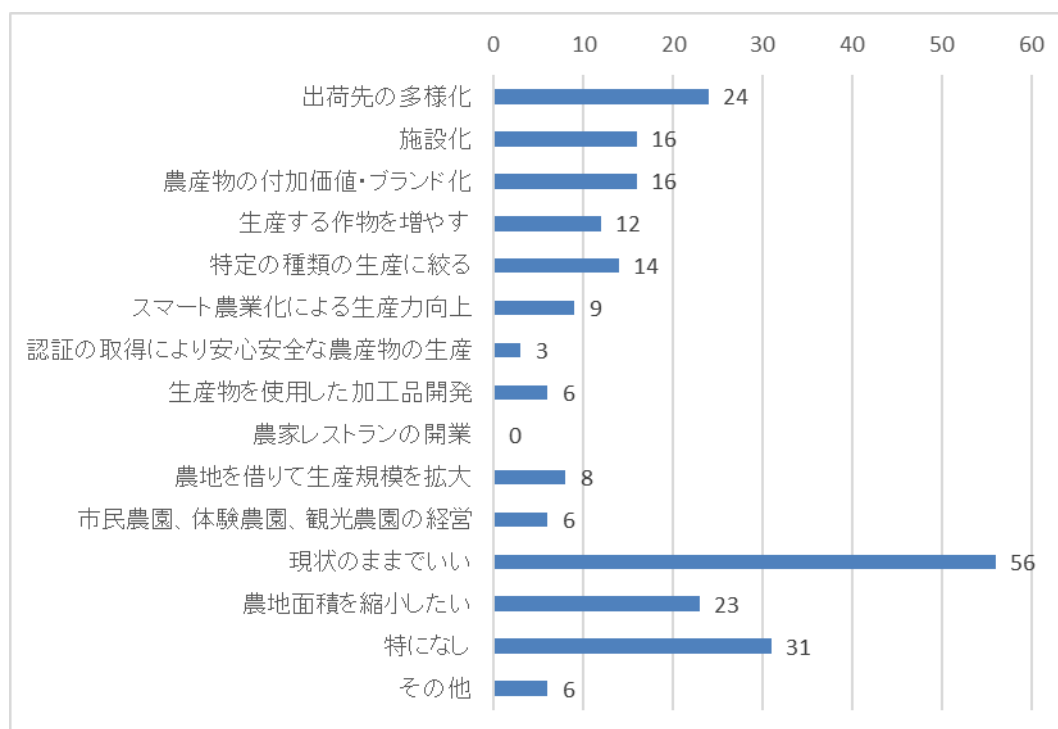
「高齢化」（76件）が最も多く、ついで「経費の増大」（72件）となっています。税金の対応や農薬散布が困難など都市農業ならではの困難もあります。



（その他回答）日照不足、野菜の盗難、近隣施設の光害 など

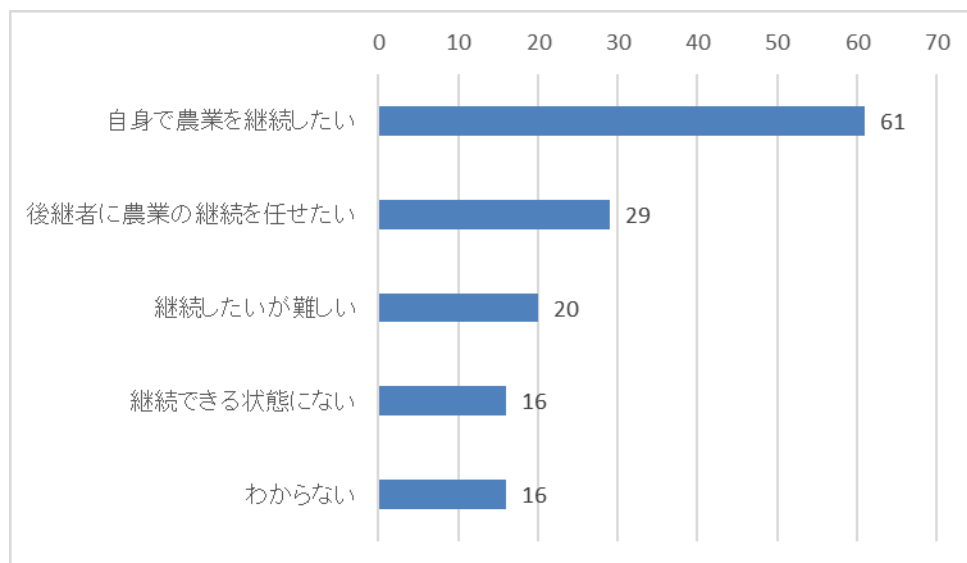
Q15. 今後の農業経営についてどうしていきたいか（3つまで回答 n=230）

「現状のままでいい」（56件）が最も多く、ついで「特になし」（31件）となっています。都市農業を取り巻く課題は多く、様々な条件から現状のまま経営を続けたい方が多いことが分かります。



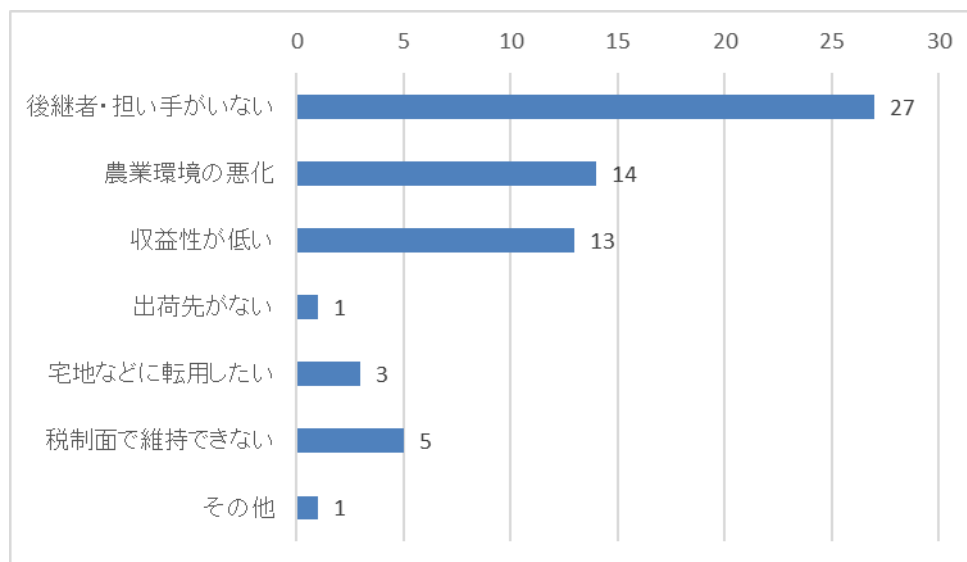
Q16. 今後 10 年間の農業継続について (n=142)

今後の農業継続について、「自身で農業を継続したい」(61 件) が最も多いです。一方、継続できない・できるかわからないという回答も多くなっています。



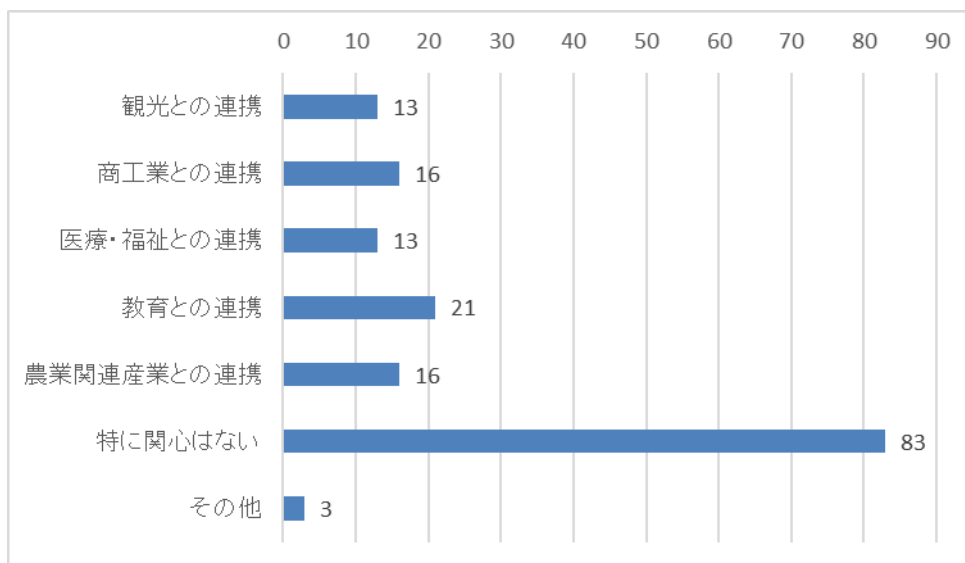
Q17. 問 16 で「継続したいが難しい」「継続できる状態でない」とした理由 (n=64)

「後継者・担い手がない」(27 件) が最も多く、ついで「農業環境の悪化」(14 件)、「収益性が低い」(13 件) が続きます。担い手不足、宅地化など農業を取り巻く課題が浮き彫りになっています。



Q18. 他業種との連携について関心のあるもの（3つまで選択 n=165）

他業種との連携については、「特に関心がない」（83件）が最も多く、ついで「教育との連携」（21件）となっています。食育や学校給食に関心があることがわかります。

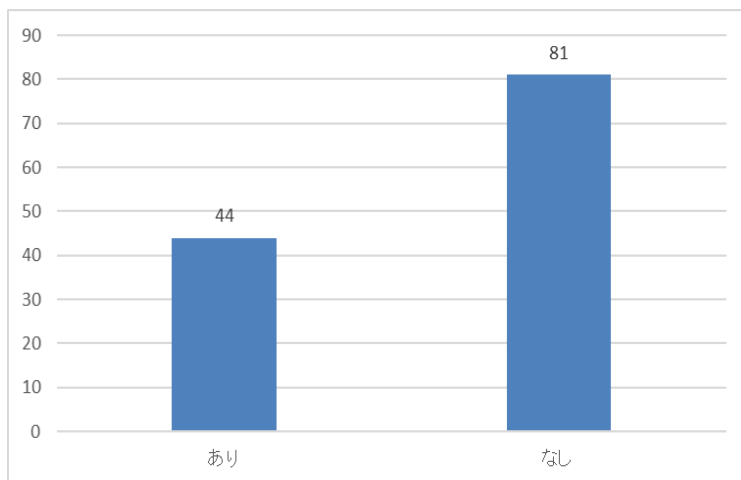


（その他回答）B品を使用した加工品、生産物の写真を使用した商品パッケージ

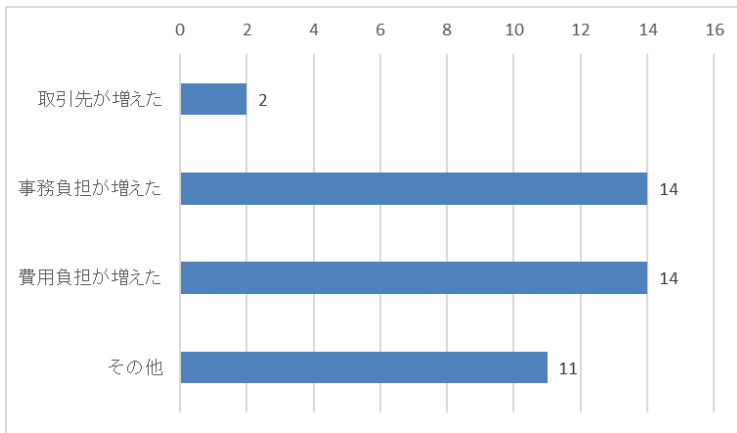
Q19. インボイスについて（n=254）

インボイスの登録については、登録「なし」が約3分の2を占めています。登録の影響は、「事務負担が増えた」「費用負担が増えた」が同数となっています。

（1）登録の有無（n=125）

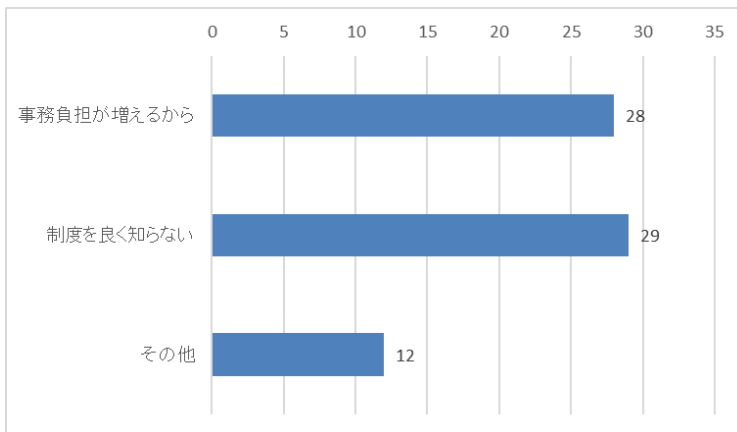


(2) 登録の影響 (n=41)



その他:変わらない、影響はない

(3) 未登録の理由 (n=69)

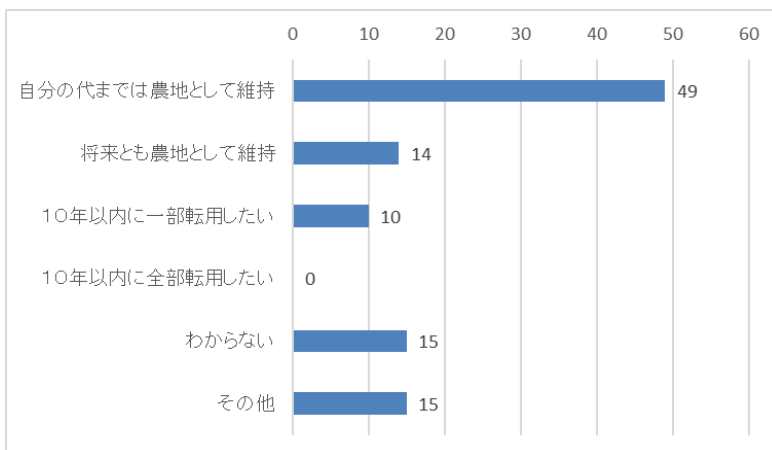


その他:制度に該当しない、必要性を感じない 等

3 所有する農地について

Q20. 宅地化農地を今後どう活用したいか (あてはまるもの全て回答 n=103)

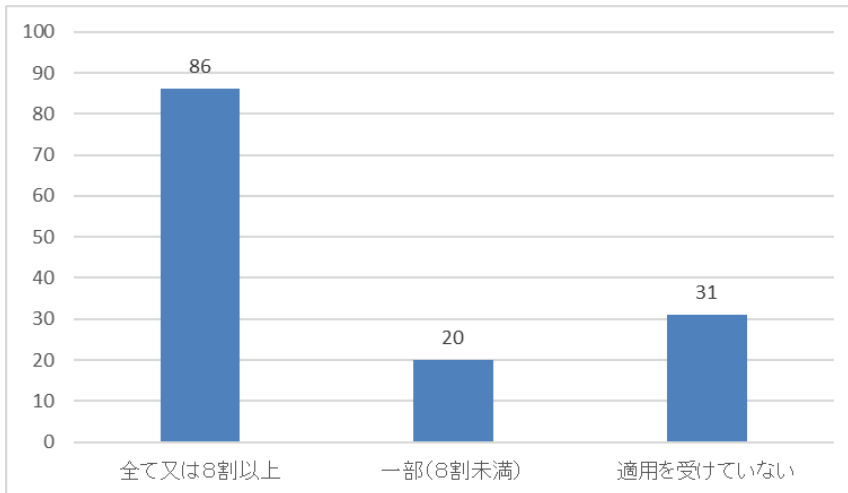
「自分の代までは農地として維持」(49件)が最も多く、ついで「わからない」「その他」(各15件)となっています。



その他:記載事項なし

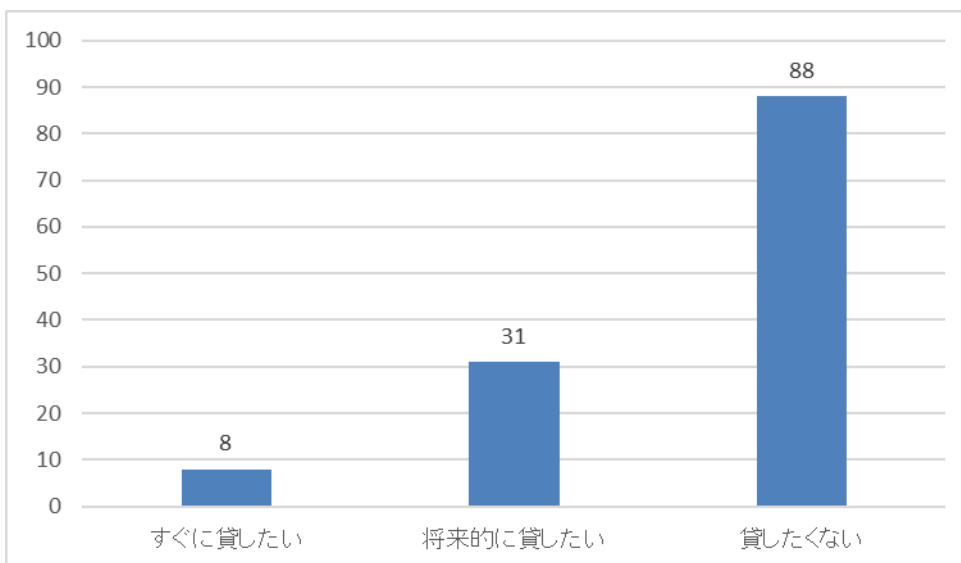
Q21. 生産緑地の相続税納税猶予の適用を受けているか (n=137)

「全て又は8割以上」(86件)が最も多く、「適用を受けていない」が31件でした。



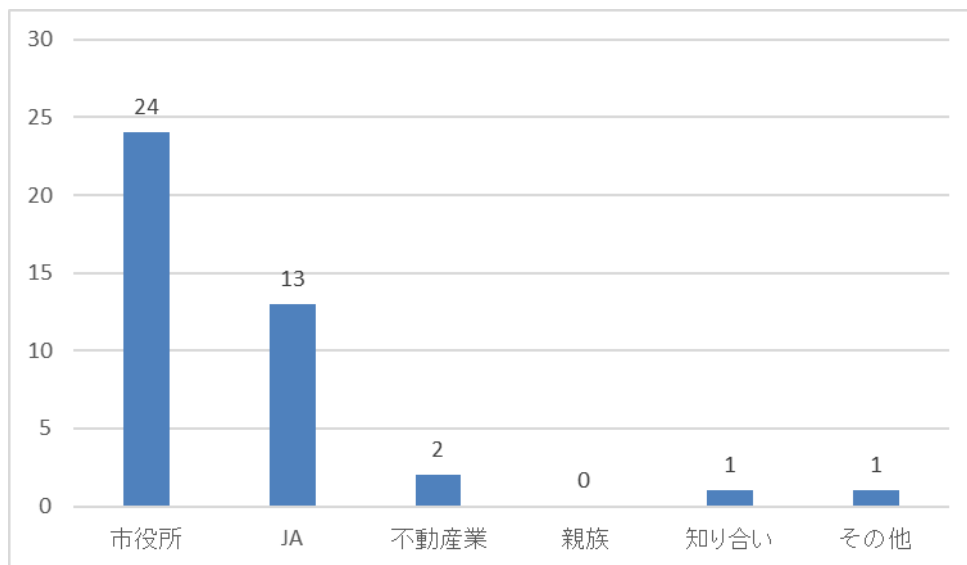
Q22. 生産緑地を他者に貸し出したいか (n=127)

「将来的に貸し出したい」が39件でした。一方「貸したくない」は88件でした。



Q22-2. Q21 で貸したいと回答した方の相談先 (n=40)

「市役所」が最も多く 24 件で、ついで「JA」が 12 件でした。



その他:未定

Q22-3. 生産緑地を他者に貸したくない理由 (自由記述)

52 件の回答があり、主な分類と代表的な回答は以下の通りです。

(1) 現在営農している又は今後も自身(後継者)で営農したい(24件)

【主な回答】農業経営に必要な面積である、後継者に任せたい など

(2) すでに借りている(2件)

【主な回答】追加で借りたい

(3) 所有している生産緑地の面積が少ない(5件)

【主な回答】貸せるほど所有していない

(4) 貸すことに抵抗がある、面倒ごとがおきそう(10件)

【主な回答】他人に貸すことに抵抗がある、相続時に面倒になりそう、人間関係が心配

(5) 今後について考えていない(3件)

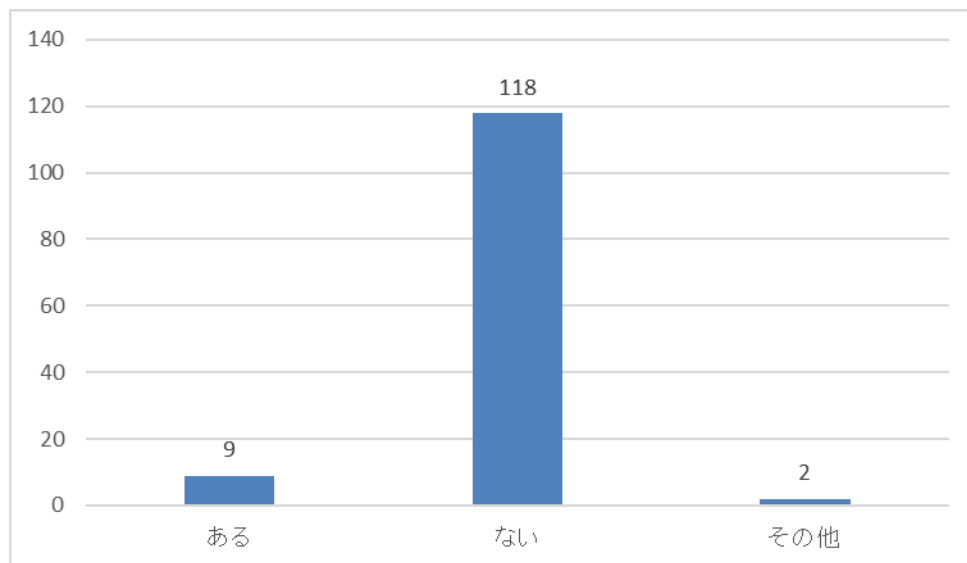
【主な回答】貸すにしても先のことで見通しが立たない

(6) その他(9件)

【主な回答】貸す必要性を感じない、現状のままでよい

Q23. 生産緑地の追加指定について (n=129)

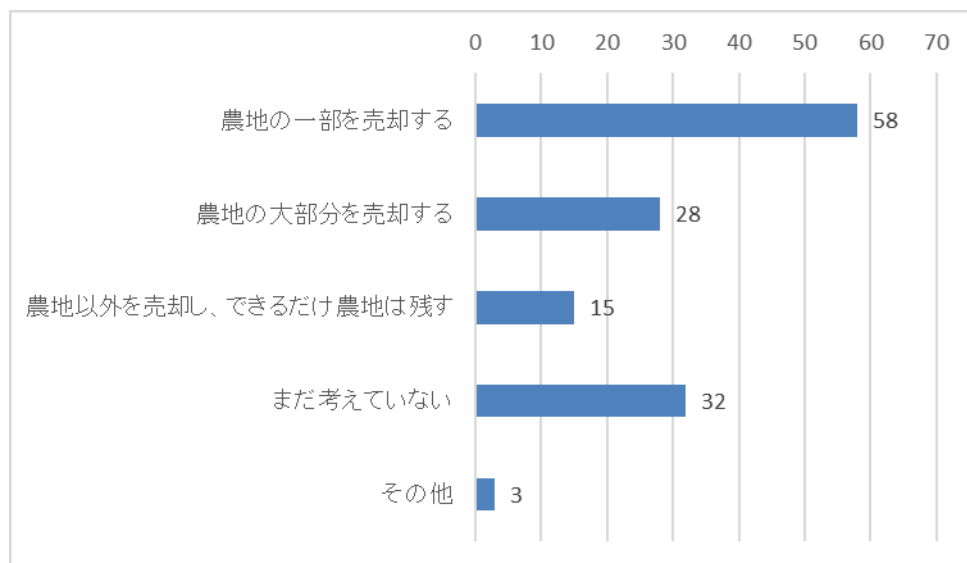
追加指定の意向が「ない」が大部分を占めました。



その他:特定生産緑地の指定意向はあり、状況による

Q24. 今後の相続対策について (n=136)

「農地の一部を売却する」(58件)が最も多く、ついで「まだ考えていない」(32件)となりました。面積を問わず「売却をする」方は86件となっています。



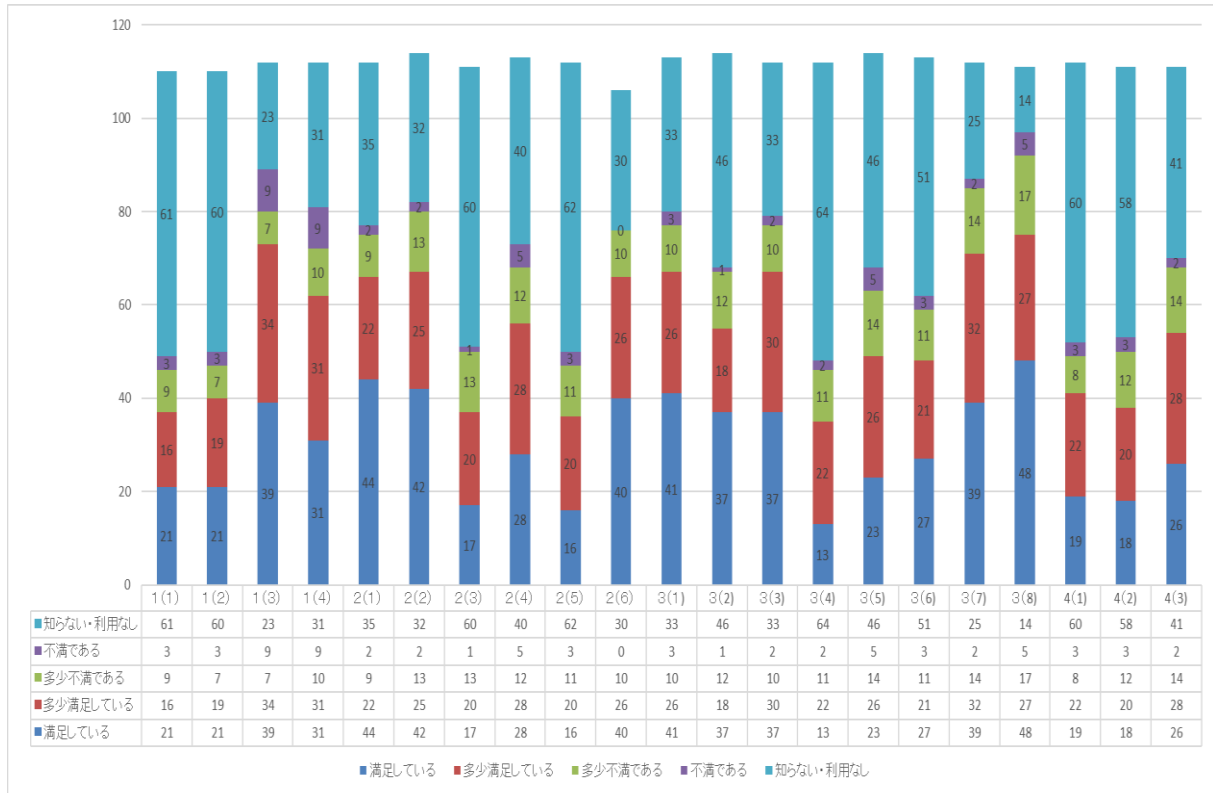
相続税納税猶予についての自由意見

現行のまま継続を求める意見がある一方、「終生就農の要件を変えてほしい」「現行の制度では農地減少に歯止めがかからない」といった改善を求める声が多くありました。

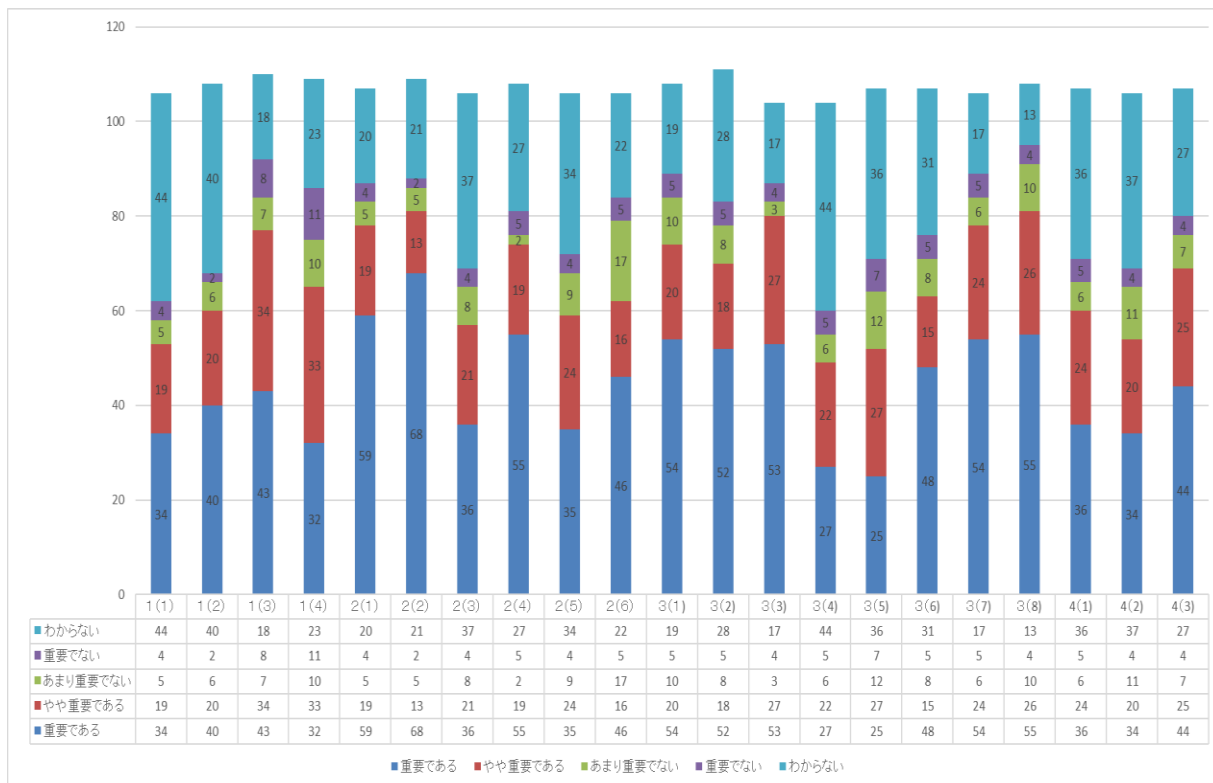
4 農業振興施策について

Q25. 市が実施した事業の満足度及び重要度について（設問は次項記載）

(1) 満足度



(2) 重要度



(Q25 設問一覧)

| |
|---|
| 1. 農地保全と多面的機能の活用 |
| (1)生産緑地バンク制度 |
| (2)生産緑地の貸借を行った際に、貸借農地の土壌改良等に係る費用を補助 (都市農地貸借促進事業) |
| (3)土埃対策の種子配布 (土埃対策及び景観美化用緑肥配布事業) |
| (4)清瀬ひまわりフェスティバル事業 |
| 2. 担い手の確保・育成 |
| (1)「清瀬産」と明示した出荷容器の購入費を補助 (出荷容器改善事業) |
| (2)農機具、環境保全資材、農業 DX 機器の整備・購入費を補助(地域農業者支援事業) |
| (3)農産加工品の開発、製造、販売等の費用を補助 (地場産農産物加工販売支援事業) |
| (4)認定農業者への支援の拡充 (各種補助金の補助率を拡充、経営改善計画作成の支援) |
| (5)生産者と民間事業者のマッチングを行い新たな出荷先や販売経路の開発 |
| (6)農業後継者顕彰の実施 |
| 3. 食の安心・安全と地産地消の推進 |
| (1)直売所マップの作成 |
| (2)直売所用のぼりの配布 |
| (3)堆肥の購入費用の一部を補助(堆肥利用促進事業) |
| (4)加工業者などの民間事業者とマッチングを行い、加工品等の開発を支援 |
| (5)地場農産物を使用した商品の開発(きよせ棒など) |
| (6)学校給食への納品の支援(各種補助金の補助率の拡充、学校給食担当者の紹介等) |
| (7)市が発行する広報誌等で清瀬市農業の PR |
| (8)農業まつりの開催 |
| 4. ふれあい農業の推進 |
| (1)市民農園を開設される方に整備費用や運営費用を補助 (市民農園開設支援事業) |
| (2)市民農園の運営 |
| (3)学校教育との連携 (職場体験の受入、食育・職能教育の推進等) |

Q26. Q25 の施策等についての意見（自由記述）

（事務局にて一部抜粋・文言を変更）

- ・（補助金で）認定農業者と差をつけるのはおかしい
- ・生産緑地バンク制度を利用したい農家はいるが、事情で営農が十分に出来ない農家への周知が足りないのではないか。農地利用状況調査（※）で現状は把握しているはずなので、制度活用の声掛けを積極的に進めてほしい。
- ・農業施策を推進する人人体制が十分ではない。
- ・振興施策は野菜農家に多くのメリットがあり、他の農家には利用できる部分が少ない。

Q27. 担い手不足の課題に対し、どのような施策があればよいか（自由記述）

（事務局にて一部抜粋・文言を変更）

- ・安定した収入が得られる施策、収入保障、生産物の単価上昇
- ・農業法人の設立・農家の M&A 合併、農家同士共同で畑をやるにはどんな方法があるかといったテーマでアドバイザー派遣、仲介の会議や勉強会があるといい。
- ・相続による農地の減少はどの農家も避けて通れない問題です。相続があると農地の減少は避けられず、生産規模や品目の縮小をせざるを得ない場合が考えられます。営農するにはギリギリの面積で、子どもには農業は継がせられないと心配している人もいます。技術はあるのに継承されないのはもったいなく、減少する農地を農地貸借で補うことが可能であれば、将来に渡ってもう少し明るい展望が開けると思います。意欲がある農家がいても、農地がなければ意味がありません。後継者にとって、長く安心して営農できる農地がまとまってあることが何よりも大事だと考えます。
- ・周辺環境、市民の理解

Q28. 農地の減少についての意見（自由記述）

（事務局にて一部抜粋・文言を変更）

- ・今の税制では農地減少は防げない。相続税の改正が必要。
- ・新規住宅での開発について、盛り土の高さを制限してほしい。
- ・農地貸借をもっと促進してほしい

Q29. 市民にどのような形で農業・農地を支えてほしいか（自由記述）

（事務局にて一部抜粋・文言を変更）

- ・農作業に伴う騒音やにおい等への理解
- ・直売所やスーパー等で、積極的に市内産農産物を購入してほしい。消費者に喜んでいただければ、生産意欲は高まり、野菜作りに益々熱が入ります。熱が入ればより新鮮で美味しい野菜を提供できるし、安定した経営が可能となる。こうした魅力的で元気な姿を見せられれば、次の世代へとバトンが繋がっていくのではないのでしょうか。
- ・食育・景観・防災面といった農地が持つ役割の大切さを伝え支えてもらいたい。
- ・無断立ち入りやゴミのポイ捨てをやめてほしい。

Q30. 自由意見（自由記述）

（事務局にて一部抜粋・文言を変更）

- ・開発が進み太陽が当たらない畑ばかりで野菜がとれない。
- ・農業経営をコンサルしていただける制度、税金対策等相談窓口があるとよい。
- ・補助金で学校給食納入者の補助率アップといったインセンティブをもたせる方法はよい。農機具購入にあたっては、都の補助対象事業費の下限を引き下げ、かつ市の補助があると規模が小さい農業者も利用しやすい。
- ・農道の効率的な整備
- ・農地という私有財産に市のかかわりは難しいだろうが、環境保全・地域の農を守る・自給率を高めるといふ施策目的を明確にして、大胆な施策推進をすすめてほしい。